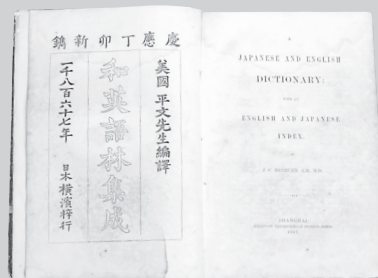


●表紙で紹介する貴重書

ジェームズ・C・ヘボン生誕200年



Hepburn, James Curtis [ed.]  
 “A Japanese and English Dictionary”  
 ヘボン編『和英語林集成』  
 (横浜梓行) Shanghai, 1867(慶応三年)

今年にはヘボン式ローマ字の考案者として知られるジェームズ・C・ヘボン(1815-1911)の生誕200年にあたります。彼は医学博士号を持つアメリカ長老派の宣教師で、来日するまでにシンガポールや中国の廈門で布教活動を行っていました。

彼が初めて神奈川へ上陸したのは日米通商条約が締結された翌年の1859(安政六)年のことでした。この頃は、まだ徳川幕府によってキリスト教の布教は禁じられており、これを断念して寺院に診療所を開いて奉仕活動に力を注いでいたといわれています。

また、1863(文久三)年からは夫人と共に横浜で塾(後の明治学院大学)を開いて日本人の英語教育にも取り組み、同時に彼自身の日本語力も向上させました。彼はその場で和英辞典の必要性を痛感したようで、日英対照の言葉を集めて作り上げたのがこの辞書です。こうして編纂は横浜で行われましたが、当時の日本には洋装本の作製技術がなかったため、印刷と製本は上海に赴いて1867(慶応三)年に完成させました。

その結果、この『和英語林集成』は「平文先生」の編譯として多くの人たちに利用され、明治時代に編纂された同種の辞書に影響を与えることとなります。

なお、彼が発案したヘボン式ローマ字は、丸屋(現在の丸善)に著作権が移った第3版(明治十九年刊行)より使われています。(榎)

形態: xii, 558, 132頁 26.5×18.5cm

マガジンラック (50)  
 「知っていますか?図書館の雑誌」  
 \_\_\_\_\_ 柴 咲子 23

本学図書館のスペシャル・コレクションより (42)  
 佐藤顕理とその書物の話  
 \_\_\_\_\_ 奥 正敬 24・25

シリーズパソコン周辺機器 ③④  
 「日外 magazineplus 目次 ASP サービス」  
 \_\_\_\_\_ 宮杉 浩 26

名作再読、拾い読み (32)  
 『悲しき酒場の唄』(2)  
 (“The ballad of the sad cafe”)  
 \_\_\_\_\_ 小澤文彦 27

おこしやす、図書館へ  
 「言語学、はじめの一步 (24)」  
 \_\_\_\_\_ 入学直哉、藤井達也 28

日本の歴史43  
 『地図で読む『古事記』『日本書紀』』  
 \_\_\_\_\_ 稲垣宏行 29

Book Review Corner \_\_\_\_\_ 30・31

図書館利用案内

ライブラリー・カレンダー 2015 (7月~9月)  
 \_\_\_\_\_ 32

本書はスペシャル・コレクション

「古辞書・古事典」

に含まれています